

熊本市民病院は熊本地震の本震で大きな被害を受け、医療の継続ができなくなりました。東区東町に移転・新築した市民病院は、地震の教訓を生かして災害時の拠点となるよう備えを充実させています。

水を失い機能喪失した熊本市民病院 教訓生かし備え充実 災害時の拠点に

市民病院は前震では持ちこたえ、地震でけがをした人の治療に当たりました。その数は317人に上ります。しかし本震で電気、ガス、水道のライフラインがストップ。電気は非常用発電機で復旧しましたが、水は貯水槽の天井が壊れて使えなくなり、医療を継続させることができず、病院は入院患者310人を、県内外の医療機関に転院、または退院させるという苦渋の決断をしました。

壁に多くのひびが入り、ガラスが割れ、物が散乱した中、職員はシーツや毛布を担架代わりにして患者一人ひとりを階段で1階に避難させました。NICU(新生児集中治療室)の赤ちゃんは、人工呼吸器での管理を手動に切り替え、命をつなぎました。

患者搬送を主に担ったのは、九州各県の緊急消防援助隊です。前震を受けて熊本に集まっており、情報収集をする中で市民病院の事態を把握し、多くの救急車を出してくれました。「消防の方や県内外の医療機関の協力のおかげで、すべての患者を搬送することができ感謝しています」と、熊本地震当時総務課長だった田代和久・現病院局参与は振り返ります。



水が大きく揺れ動いたことで天井が割れた貯水槽



前震の後、運ばれてきた多くの患者に対応する職員ら



落下した検査機器

水と電気は2系統から 免震構造、ヘリポートも

市民病院は被災後、医療サービスを迅速に提供するため、現地建て替えではなく、東区東町に移転・新築しました。令和元年、鉄骨鉄筋コンクリート造り7階建て、延べ床面積約4万平方メートルの建物が完成。熊本地震を教訓に地震や水害、台風などの災害時の医療拠点として患者を受け入れる体制を整え、「災害に強い病院」となりました。

建物は免震構造で、旧病院にはなかったヘリポートを備えています。水は上水道と井戸水の2系統で確保し、上水道が供給できなくなっても、井戸水で賄えるようにしました。旧病院の貯水槽は強化プラスチック製でしたが、より耐震性が高い鋼板製にしました。電気も2系統から送電できるようにして、電気関係の設備は水害時に水浸ししないよう7階に配置しています。

県内唯一の第1種感染症指定医療機関として、感染症への対応も整えています。新型コロナウイルスが大流行したときは多くの患者を受け入れ、重要な拠点となりました。

今後も地域の基幹病院として、高度な専門性を有する医療を安定して提供できるよう取り組んでいきます。

(熊本市民病院 ☎096-365-1711)



移転・新築した熊本市民病院の外観



より耐震性を高めた貯水槽



地下に設置された、地震時に建物の揺れを抑えるオイルダンパー

7ページ
自転車の交通ルールクイズの答え

正解は ○

傘スタンドで両手が使えても、視界不良や風でふらつくなど、安全に運転できないおそれがあり、危険です。絶対にやめましょう。(道路交通法第55条第2項・第70条、熊本県道路交通規則第11条)

熊本市民コールセンター

市の手続きや休日当番医など、気軽にお尋ねください。

午前8時～午後8時(年中無休)

ひごまるコール ☎ 096-334-1500

ひごまるコール



市政へのご意見・ご提案

市民の声を投稿フォーム
市政に対するご意見やご提案等をお寄せいただき市政運営にいかしていきます。

市民の声投稿フォーム



公式ホームページ・SNS

最新情報をお届けします

ホームページ



Facebook



X



LINE



配布に関する問い合わせ

市政だより配布センター

☎ 0120-666-659

午前8時～午後8時(土・日、祝日は除く)